令和５年度第１回広島市立図書館協議会 会議要旨

日　時	令和５年７月27日（木）　午前10時00分～午後11時40分		
場　所	広島市役所本庁舎14階第７会議室		
公開・非公開の別	公　開	傍聴人	４名
出席者	委　員：林委員、大片委員、武川委員、村上委員、大澤委員、前田委員 事務局：中谷市民局次長、田尾生涯学習課長、高田指導第一課長、長谷中央図書館長、 下土井中央図書館副館長、佐藤中央図書館事業課長、原田こども図書館長		

議　事（会議要旨）

1　開会

2　議事

（1）広島市子供の読書推進のための取組について

＜説明＞

資料１に沿って生涯学習課長が説明

＜質疑等＞

（武川委員）

どこの生涯学習課もこういう取り組みをしている中、ちょっと壁にぶつかっているんじゃないかという気がする。子供たちがいみじくも答えてると思うが、社会的な背景で「やりたいことがいっぱいある」というのが現状だと思う。

先日、戦争が終わって少し経ったころの小学校の校庭の写真を見たが、子供たちはみんな校庭に散らばって本を読んでいた。結局本しか娯楽がないという社会の中で、読書に没頭していた。今のように何でも選ぶことができるという壁がある中で、これから更に発展させていこうとすると、どうすればいいのかという課題が大きくのしかかる。

保護者の意識が重要だと思っているが、様々な図書の研修会、読み聞かせの研修会を開いても、もともと研修会がなくても自分で読書活動を推進できる人ばかりが集まってきている。本当に読書の重要性を知ってもらいたい保護者については、情報が届いていないか、捨てられているか。そのような状況なので、これはお願いだが、本当に必要なところへどうやって届けるかという、また一歩違った新しい取り組みがもしあれば、工夫していただけたらと思う。

（指導第一課長）

指導第一課は小学校、幼稚園を管轄しているが、おっしゃるとおり、子供たちのやりたいこと、やれることが増えているというのも、数字を見ると物語られている。

学校として、保護者への啓発という部分では、正直あまりできていないところがある。まずは学校に来ている子供たちを学校図書館に来させるということが第一で、そのために、ボランティアの方も協力してくださっていて、子供たちの読書環境を整えている。学校からすれば、そういう子供たちが家に帰って、保護者に「図書館に行きたい」とか「もっと本を読みたい」と伝えるということを、学校教育としてはまずそこを基本としている。それができてくると、直接的な保護者への啓発も、市の図書館、区の図書館と協力しながらやっていけるのではと思う。

例えば学校のＰＴＡを相手に、読書活動についての講演会をやるということをやっている学校もあるかもしれないが、現在そこを推奨している状況ではないので、今回はとても大切なことを話していただいたと思う。

ＰＴＡが保護者の方に講演会をする場合、恐らく一番多いのがＳＮＳで、教育委員会の育成課が携帯の使い方等を行っている、それに少し加えて、読書活動や読み聞かせを伝えるという講演会も持つべきだと、御意見をいただいて考えている。

（林委員長）
ブックスタート計画は、ゼロ歳児からずっとやっていると思うが、乳幼児期からの取り組みと学校教育の取り組みは繋がっているのか。

（こども図書館長）
当館としては、先ほどお話があった、家庭読書アドバイザーという取り組みをしており、これは各幼稚園、保育園、場合によっては公民館で、保護者の方に向けて読書というものがどういうものかについてアドバイザーの研修を受けた方にお話をしていただいている。
一方で幼稚園、保育園等々が翌年度の年間計画を立てる時期に、幼稚園、保育園の園長会がある。そちらへ出向き、「アドバイザーの派遣という事業があるので、是非御利用ください」といった形の説明をしている。
実施状況で見ると、令和 4 年度は 23 回ということで若干増えている。引き続き、そういった活動を続けていきたい。

（林委員長）
重点施策の見直しということで、最後に話があったが、それについて「これをしてはどうか」という意見はあるか。一応、コロナの方も落ち着いてきて、これが戻るのか、それともコロナを経験したからこその取り組みができるのか。そういった視点ではいかがか。

（生涯学習課長）
今まで経験したことがなかったようなコロナ禍で、社会の情勢も変わってきた中、今までの考え方とは違う読書の観点がどんどん入ってくると思う。
そういった観点も踏まえて、令和 7 年度までの目標については、次回の図書館協議会の中で御意見等をいただきたいと思っている。

（前田委員）
見直しをされるということだが、参考資料の 2 を見ると、図書や書籍の定義、どういうものを図書と考えて回答しているかというのが、以前より変わっているのではないかと思う。
読書活動の①に「電子書籍等の書籍を含み、教科書や問題集、漫画、雑誌はのぞきます」とある。活字をちゃんと読むとか、人の書いたものを読むというようなことが、電子媒体ができたことによって形態が変わっていると思う。
そもそも「図書を 1 冊以上読む」や、図書や書籍の定義も変化していると思うので、そういう視点も入れて、目標値に反映できるようにするとよい。
もしかしたら本は読んでいないけれども、それに相当するような文章量を電子媒体で読んでいるかもしれないが、そういう子は「読んでない」と答えている可能性もある。
先ほど読書以外に色々することがあるという話があったが、そもそも本を読むということと、活字に触れるということ、いわゆる図書、書籍というところにこだわらなくてもよい状況になっているので、目標値の「本を読む」ということそのものの定義を考え直さないといけないのではないか。

（林委員長）

「学校経営と学校図書館」という集中講義を他の大学で非常勤講師として行っているが、学習センター的には、学校図書館で扱っているのは図書。図書というと学習に使う。そういう意識がバラバラというか、あまり変わらなくなっていると思う。

表現は悪いが、しっかりとした読書というと、900 番台が付いている文学作品などに行きがちだが、書籍を使って調べものをするような、その箇所その箇所から必要な情報を抜き出し、そこはしっかりと読む。それが「書を読む」、読書の新たな概念になろうかと思う。

(2) 図書館事業について

＜説明＞

資料 3 に沿って中央図書館副館長が説明

＜質疑等＞

（林委員長）

利用者アンケート調査結果の回答者数は、多くなっているのか、少なくなっているのか。これまでと比べてどのような推移か。

（中央図書館副館長）

令和 3 年度と比べて、同数程度の回答件数となっている。令和 4 年度は中央図書館の回答数が一番多く 485 件、区の図書館が約 200 件の回答数となっている。

（村上委員）

アンケート調査結果のところで、「質問や問い合わせに対する職員の本や情報に関する知識の的確さ」が「満足」と「やや満足」を合わせて 58%を超えているが、先ほどもう少しそこに力を入れていきたいという説明があった。図書館で働いている方は、ほとんどが司書資格を持っているのか。

（中央図書館長）

広島市立図書館の職員に対する司書の割合は 8 割を超えている。しかし、アンケート結果では「質問や問い合わせに対する職員の本や情報に関する知識の的確さ」が低いため、研修に力を入れようとしているところである。利用者からすると、ボランティアと職員の見分けがつかないところもあり、もしかしたらボランティアに問い合わせをされたときに「ちょっと向こうで聞いてください」みたいなこともあったのではないか。いずれにしても、しっかりと研修等々に励んでいきたいと思っている。

（村上委員）

ボランティアと職員の見分けがつかないということは確かにあるかもしれない。8 割というのは、非常勤と常勤を合わせて 8 割ということか。

（中央図書館副館長）

そうである。職員には、5 時間 45 分勤務の非常勤職員と、7 時間 45 分勤務の常勤職員がいる。

（村上委員）

図書館司書はとても大切だと思う。非常勤職員は 1 年契約の更新では身分が保障されないというか、多分毎年更新はしてもらえるだろうけれども、来年わからないという状況だと、研修を受

けるにしてもモチベーションが違うような気がする。なかなか難しいことだと思うが、常勤の方が増えるといいと思う。
　新規採用は毎年度あるのか。あまり入れ替わりはないのか。

（中央図書館副館長）
　定数が決まっているので、退職補充という形で採用は行っている。

（村上委員）
　基本的にはあまり採用はないということか。

（中央図書館副館長）
　たくさんではないが、年によっては３人、４人という年もある。

（村上委員）
　司書の内情のことはよくわからないが、大切にしてもらえるといいと思うので、よろしくお願いしたい。

（大澤委員）
　資料３の３ページの「多文化共生支援」で、「外国語のおはなし会」を実施されていて、すばらしいことだと思う。「ポルトガル語、スペイン語コーナーの充実」と書かれているが、他の外国語は何語があるのか。

（こども図書館長）
　こども図書館も外国語の絵本の読み聞かせを行っており、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語で来ていただいたことがある。

（大澤委員）
　おはなし会の周知はどのように行っているのか。

（中央図書館副館長）
　講師は日本語もお話できる方に来ていただいており、日本の方は参加が難しいということはない。広くイベントの広報を行っている。

（大澤委員）
　外国人の方に行き渡るように、周知の方法を工夫されているということか。

（中央図書館副館長）
　特定の所にということではないが、広くチラシやホームページ等で周知を行っている。

（中央図書館館長）
　補足をさせていただく。安芸区のポルトガル語スペイン語コーナーというのは、その言語圏の方がお仕事の関係でたくさん来ておられるということがあって、ピンポイントで行っている。ポルトガル語もしくはスペイン語でのチラシも作成し、お配りしたり掲示をしたりして周知している。

(3) 中央図書館等再整備に係る基本設計について

＜説明＞

資料 4 に沿って生涯学習課長が説明

＜質疑等＞

（前田委員）

中身が大分見えてきたので楽しみである。レイアウトやそれぞれがどういう機能を持っているかということの説明だったが、移転することで、調べ物のために来る方も増えるのではないかと思う。例えば、アプリのような形で、この辺にこういう関係の本があるとか、具体的に本がここにあるということを、職員が案内しなくても自分でそこへ探しに行くなど、オンラインサービスと連携したような使い方ができないかなと思うが、そういった検討や計画はないのか。

（生涯学習課長）

自分のスマートフォンで館内案内図のようなものが見れて、検索すると自分の見たい本がどの辺りにあるのかが検索できるようなものだと思うが、今後、運用についての検討を進めていく中で、利便性の向上はしっかり考えていきたいと思っている。

（前田委員）

リニューアルするので、是非色々な技術を取り入れてもらいたい。先ほど効率的にという言葉があったが、忙しい人にとってはそういうアプリも役に立つと思う。全国の図書館にそういうものがどれぐらいあるのかわからないが、是非活用してもらいたい。今、美術館でも自分のスマートフォンで絵の案内が見られる。全てを図書館から提供する必要はないと思うが、是非お願いしたい。

もう一つ、書店はここに入っているのか。

（生涯学習課長）

今、10 階にジュンク堂という書店が入っている。この度の再整備と福屋のリニューアルに当たって、6 階へ移動して今後も運営されると聞いている。

（前田委員）

図書館には本を借りに来るとか調べ物に来るということだが、そこで見つけた本を自分で買いたいとか、それから誰かにプレゼントしたいということもあると思う。書店とも官民連携というのがあるので、繋がりが見えるような形になっているのは、意外に利用者にとってはありがたいと思う。是非それも検討をお願いしたい。

（生涯学習課長）

ジュンク堂とは整備後にしっかりと連携しながら、例えば企画展を同じような形で行い、図書館で見たものが欲しいと思ったらジュンク堂で買える等の取り組みを一緒にやっていきたいと思っている。

（大澤委員）

アプリは大賛成である。書店との連携も、例えば他の図書館では、セルフ貸出機で借りたら T ポイントが付くなど、T ポイントカードと図書カードが一体化したようなものを、官民力を合わせてやっている所もある。そういうふうに両方の関係で進められたら私達も嬉しい。御検討をお願いしたい。

（村上委員）
　オープンハウス型説明会と、障害者団体の方にも色々意見を聴かれたということだが、どういう障害者団体の方に聴かれたのか。

（生涯学習課長）
　あらゆる団体に声掛けし、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由の方、難病の方、色々な団体の方に御参加いただいている。

（村上委員）
　色々な障害の方の意見を聞かれたということで、前回は特に書かれていなかったが、今回別紙の図面を見ると、9 階と 8 階には多目的トイレの新設と書いてあり、障害者の方の意見を聴かれたのかなと思う。ただ、10 階の対面朗読室が、図面でいうと左側の下の辺りにある。色々な所に入り口があるので、どこから入る人が多いのかが難しいと思うが、ここに図書館を置くと言ったときに、ペデストリアンデッキとの関係でそちらが障害のある方でも雨に濡れずに入ってこられるということを強調されていたので、右上の方のエレベーターから入ってこられると考えたときに、一番ここが遠い。対面朗読室に近いエレベーターは、駐車場には近いと思うが、ペデストリアンデッキから右上のエレベーターを上がってこられたとすると、一番遠い場所にあって、しかも真ん中にエスカレーターがあり複雑な形になっているので、たどり着くのが難しいのではないか。私は当事者ではないが、少しそう感じた。右上のエレベーターの一番近くにというのも難しいのだろうが、せめて左上の、今でいうとセルフ式予約図書受取コーナーがある辺りだと「入られてまっすぐ行って右手です」くらいの説明でたどり着きやすいのではないか。場所は検討してもらえたらと思う。
　カウンターの位置もすごく奥になってしまって、エスカレーターからは比較的近いが、配置はどうなのだろうと思う。
　それと、出入り口が多いということに関連して、広島市立中央図書館という看板というか、ネームプレートはどこに付けるのか。何かもう計画があるのか。

（生涯学習課長）
　入口に関しては、色々な所から来ていただけるような形になっている。看板の位置については、今後、実施設計で細かい設計をしていく中で、どういった位置に付けるのが一番わかりやすいか検討したい。また、なるべく多くの場所に看板を付けて、利用者の方にしっかり中央図書館だということがわかってもらえるようにしたいと思っている。

（村上委員）
　一か所と限らず何か所も、それこそ各階には付けないといけないだろうし、エレベーターの所、エスカレーターの所と、たくさん付けないといけない感じになるのだろう。
　それから、3 ページの 9 階の図だが、広島文学資料室の位置が、大幅に前回の計画とは変わっている。広島文学資料については、6 月だったか、広島市長が浅野文庫と一緒に別施設として整備すると言われたと思うが、これはどういう扱いになるのか。

（生涯学習課長）
　浅野文庫を保存・活用する施設を新たに整備していくこととしている。その中で新たな文学館の建設や、浅野文庫を保存・活用する施設と一体的に作ってもらいたいという要望があったことから、この施設の基本計画を今年度に作ることにしており、文学資料についてはその扱いも含め、この基本計画の中で検討したいと思っている。

（村上委員）
　まだはっきりと決まってないというのが現状か。

（生涯学習課長）
　新たな施設と一体的になるなどとなっても、中央図書館のオープンよりは後になるものであり、基本的にはまずはこのような形で、広島文学資料の保存・活用をしていくものと考えている。

（村上委員）
　一旦、今の中央図書館からエールエールに資料を移し、新しい文学館ができれば文学館に移すということでよいのか。

（生涯学習課長）
　「広島を知るエリア」で広島を知っていただくための資料はこの中に配架していく必要があり、今後、図書館や関係者も含めて、どのような形で整理していくのがよいかということは考えていきたいと思っている。

（村上委員）
　ここにあるものと、文学館ができたらそちらに行くものとに分散していくのか、それは今から当事者の方と検討されるのだと思うが、まだ課題があると感じる。
　それから、4ページの8階の部分。8階に既に子供用のトイレがあるので、改修は特にしなくても大丈夫と言われていたが、9階と10階には子供用のトイレというのはない。それで、10階でお父さんやお母さんと一緒の子供が「トイレ」と言った時に「じゃあ8階まで行こう」みたいな感じになる。この中央図書館全館が「誰にでも優しい」と考えると、9階、10階にも整備したほうがよいのではないか。
　それと、ロッカーとベビーカー置き場が各階に取られているが、車椅子の方にも対応できるような配置になるということなので、恐らくベビーカーも図書館の中を押して歩いたりもできるのだろうと思っている。そうなったときに、ベビーカー置き場はどういった時に使うのかを考えると、8 階の子供のエリアでは、おはなし会の部屋に入るには、必ずベビーカーから降りるということになり、そういうときに使うのかなと思う。お孫さんがおられる方に聞くと、ベビーカーは結構値段が高いものもあるので、こういう人目につかないところに置いておくのが心配だと言われる方がいる。おはなし会の部屋に参加する時、もしくは絵本の読み聞かせコーナーで絨毯に上がって聞くときに、ベビーカーから降ろすとすると、目につきやすい場所、あるいはおはなし会の部屋や読み聞かせコーナーに近い場所にあるほうが安心なんじゃないかという意見も聞いたので、御検討いただきたい。
　それから、8階の多目的室は、こんなにいっぱい部屋があり、図書館が管理すると言われたが、こうなってくるとここは、はたして図書館なのかという気がしている。利用時間も違うので、ここは青少年センターの分館、ひょっとしたらこちらが本館になるかもしれないが、そういう形で整備した方がよいのではないか。
　エールエールの6階と7階にＲＣＣ文化センターが貸会議室を来年の春オープンするという話を聞いたが、それは知っているか。

（生涯学習課長）
　知っている。

（村上委員）

多目的室を誰でも使えるという形で整備してしまうと、ＲＣＣ文化センターの貸し会議室と競合することになる。8 階の多目的室は今の青少年センターと同じように、まず青少年優先で、空いていれば一般の方もお金を払えば使える、青少年の方は利用料を払わなくて使えるというふうに、いわゆる貸し会議室とは別の扱いにしたほうがよいのではないかと感じた。青少年センターの利用者の方がどういうふうにしたいとおっしゃっているのかは存じ上げないので私の勝手な意見だが、図書館の会議や研修は、10 階にセミナー室があり、8 階にボランティアルームや会議室もあるので、図書館の施設としてこんなに多目的室がたくさん必要なのかなと思った。

それと、資料の 5 ページで、花や緑を効果的に配置するということで、このイメージ図にもグリーンがたくさん置いてあるが、これはどういうものか。

（生涯学習課長）

実際の植物を置くようになると思う。何の種類の花や木を置くのかは今後の検討になると思うが、室内でもしっかり育つ植物を置いていくことになると考えている。

（村上委員）

これはフェイクではなくリアルの植物なのか。水やりなどが大変ではないか。

（生涯学習課長）

例えば日光的な関係などで、場所的に本物を置くことがよいのかどうかということもあり、場所によっては造花みたいなものを置くことはあり得ると思っている。

（村上委員）

例えばこの 8 階の内観検討イメージというところ、9 階もだが、結構高いところに植物が置いてあって、もし水やりをするのだとしたら、下に本があるので心配である。窓の外に緑が望めない分、中を何とかしたいということだと思うが、検討したほうがいいかと思う。フェイクのグリーンを置くとしたら、今度は埃の問題とか、それはそれでどうかとも思う。

あとは、6 ページのバックヤードのことだが、別紙を見ると 1 階南側の共用（既設）というところに、ともはと号の駐車スペースがとってある。これは、ともはと号が出払っているときも、常にここに駐車できるスペースを確保するということか。共用施設だが、大丈夫なのか。

（生涯学習課長）

その場所に置かせていただけるということで話はしている。

（村上委員）

今回この新しい図面について、一般の方に公開する予定はあるのか。

（生涯学習課長）

今日の審議会の資料は一般に公開する。

（村上委員）

資料を見た方が、何か意見を言いたいとなった場合はどうしたらいいのか。市民意見募集はしないのか。

（生涯学習課長）
　今回の図面は皆さんの意見を取り入れて作った図面なので、改めて市民意見募集を行うということは考えていない。

（村上委員）
　意見がある場合は、生涯学習課に直接要望という形で出したらよいのか。

（生涯学習課長）
　気になるところがあれば今日に限らず、御意見いただければと思う。ただ、今後は実施設計に入っていくため、大きな変更はなかなか難しいと思うが、取り入れた方がよいもので、変更ができるものについては考えていきたいと思っている。

（村上委員）
　今まで中央図書館のことは、この図書館協議会と社会教育委員会議にも諮られていたが、今回もその予定はあるのか。

（生涯学習課長）
　社会教育委員会議は８月になるが、同じように報告させていただく。

（林委員長）
　たくさん気づきをおっしゃっていただいたように思う。動線の確保については、「どこから入っても同じように周って行っていける」ということで言えば案内板。「入る手前からこういうところにこんなものがあると分かる」ということについては、これは先ほどアプリという話があったが、そういう工夫を多く取り入れていくとよい。
　ここから入ると対面朗読室まで遠いという話があったが、障害物がない限り、視覚障害の方も上手にたどり着けるのではないかと思う。必要な配慮というのは大事だが、あまり能力を低く見積もるようなことがあってもいけないかと思う。
　そこの場所に行くまでに回遊するというのは、「あっ、こんなところがこんな本が」というものがあるとよいのではないか。それが気付けるようなものであってほしいと私は感じた。
　広島文学資料室については、新しくできて、それで分かれてしまうというようなことではなくて、郷土資料館のサテライトというふうな、そこへ行かなくても、ここでこういうことをイベントとしても見せますよというふうな、そういう場所としてはあってもよいのではないか。ここを出発点として、詳しいことは新しくできる所へ行こうという、繋ぎをつけるということも大事な要素なのではないかなと思う。

（大澤委員）
　サテライトという考え方もすごくよいと思う。文学資料館はちょっと敷居が高いというか、色々な方の意見をお聞きすると、すごく好きな人は好きだけれど、興味がない人は興味がない。多分できても行かないという人もいらっしゃる。でも、この図書館が新しくなったらすごく注目されて、知るいい機会になる。特に広島駅から多種多様な方がここに直接来られるということで、多分外国人の方も、ここを手掛かりに色々なところに行かれるようになるのではないか。観光案内所になってはいけないが、視覚的なものに訴えて、広島のよさ、原爆ドームだけで素通りではなく、市内だけではなく、瀬戸内の多島美、そういう素晴らしさをそこで知っていただいて、行ってみたい、見てみたい、動いてみたい、もっとここに留まっていたい、そういうことの切っ掛けになったらすごくよいのではないかと思う。また、広島市民もここに来たら何か新しい情報があ

って、そして文学資料館なんて興味がないと言っていたような人も、ちょっとここへ来て、例えば『はだしのゲン』は広島を代表する漫画として、外国人にもかなり知れ渡っていると思うので、そういう切っ掛けからでも広島を知ってみたい、広島の文学を知ってみたい、原爆のことを知ってみたい、そういう発信の第一歩になるような場所になっていただけたらなと。

あとはグリーンのことについて、確かにグリーンがあるのはよいが、なかなかお手入れが難しい。見た目にはいいかもしれないが。上に置くのではなくて、普通にグリーンの大きなものを床に仕切りとして置いたら、自分のプライベートのように感じるような空間になってよいのではないか。シャイな人や家から出にくい人も来て、ここだったら居心地がいいと思える。

学校教育の中でも、学校に行って読み聞かせなどのイベントに出られる子供はよいが、不登校や大きくなっても家から出にくい人などが、まずアバターで来て、それから本当の図書館に行ってみようかということも考えられる。

交流スペースは、青少年センターの分館みたいなものもいいと思うが、青少年センターの利用は 25 歳までなのか。

（生涯学習課長）

35 歳までである。

（大澤委員）

独身の人の年齢が高くなっており、婚活の場みたいなこともやってはどうか。色々な人が利用するという意味で、若い人を呼び込むのだったら、そういうイベントがあってもいいのではないか。

先ほどの不登校の子供と学校の関わりについて、図書館では何か行っているのか。不登校の子供に図書館に行ってみませんかみたいな。例えば保健室登校も難しいような子供たちが、教室に入れなくて、保健室にも行けなくて、だけど図書館に行ってみようかなとか、そういう働きはあるか。

（生涯学習課長）

図書館はサードプレイスという考え方のもと、家と学校以外の居場所として、「何でこの時間にこの場所にいるの」といった声掛けはせず、自然に図書館へ行けるような雰囲気をつくるということを、これまでもやってきている。今後も、そういった子供にも利用していただけるようにはしていきたいと思う。

（大澤委員）

それもすばらしいことだと思う。知り合いに中学生から学校に行っていなくて、でも今になって図書館のよさがわかって、図書館に来て、英検、漢検など、図書館を活用して色々なものを勉強している人もいる。学校に行ってなくても、図書館へ来たらすごく頑張って色々な検定を受けようという気になって利用しているという話を聞いて、すごく嬉しかったので、そういう子供もどんどん図書館が利用できればよいと思う。

3　閉会

（林委員長）

これをもって、本日の会議を閉会とする。